

わたしは、なつみ。小学校の一年生です。わたしがすんでいる竹富島は、沖縄県の南のはじのちいさな島です。一年じゅうあたたかいよ。

十月、島の人たちはうきうきしているの。種子取祭が、ちかづいているからです。

神さまが海からはこんできた種が、ちゃんと芽をだしますように、ゆたかにみのりますように」と、おいのりするお祭りです。

おどりや、キョングンとよばれるおしほいを、たくさん神さまにささげます。とうさんも、かあさんも、四年生のつっぺい兄ちゃんも、でるんだよ。そしてね、わたしもはじめておしほいでるの。



まつさおな空。太陽がまぶしい。  
ウタキは、もう見物人でいっぱい。島を  
ていった人も、この祭りをたのしみに、お  
ぜいかえってきます。

「ブオオオー」  
十時きっかり、ほらがいの音をあいずに、  
庭の芸能がはじまりました。



悪魔ばらいの『たいこ』です。中学生と  
先生たち。みんな、島のじいちゃん生徒  
になって、れんしゅうしてきたんだよ。  
音がそろって、きれい。はくしゆがたく  
さんおこります。



ふつかめ。わたしが舞台にでる日です。見物の人は、きょうもいっぱい。

三線やたいこをえんそうする人は、あせびつしより。舞台のうらは、いししょうをきがえたり、どうぐをじゅんびしたり、おおいそがしです。

わたしは、おけしょうをして、きものをきせてもらいました。かがみをみたら、わたしじゃないみたい。

今、かあさんがおどっています。だんだんわたしのばんがちかづいてくる。

舞台上に石や木がはこばれました。いよいよ『鬼とり』です。



鬼は、お兄さんをさらっておおあばれ。鬼  
たいじのさむらいと、きりあったり、なげと  
ばしたり、はげしいたたかいです。

そのときでした。空がきゆうにくらくなり、  
おおつぶの雨が、ざあーっと滝のようにおち  
てきたのです。外でみていた人が、屋根のし  
たにあわててかけこみます。ぴかっとひかっ  
たとおもうと、こんどは舞台をゆるがすよう  
な、かみなり。

ドドドーン！ ドドーン！

ガラガラガラ、ドドーン！